

水辺施設『利根川水辺の展望台及びあずまや』整備について

茨城県取手市 建設部水とみどりの課 蛸原 善二

1. はじめに

取手市は、茨城県の南部に位置し、J R常磐線及び国道6号等の交通機関と共に、首都圏からの南の玄関口として発展してきました。

首都圏の近郊都市として、都心まで約40kmの距離にあり、市街地が形成される一方、豊かな水田や谷津田の他、緑地も多く残っており、利根川や小貝川の恵まれた河川空間を活かし、自然と共生したまちづくりを進めています。

『取手』の地名の由来は、戦国時代に大鹿太郎左衛門の砦があったことから、名づけられたといわれており、古くは水戸街道の宿場町だったことから、市内には史跡や文化財も数多く見られます。

また利根川には取手市の飛び地である小堀（おほり）地区と取手側の2箇所の栈橋を結ぶ取手市営の『小堀の渡し』が、かつての水戸街道取手の渡しの風情を現代に受け継ぎ、取手利根川の渡し数百年の歴史を背負いつつ、訪れる乗客を乗せ今に生きています。



数百年の歴史を刻む小堀の渡し

さらに、取手市は平成3年の東京藝術大学取手校地の開校をきっかけに、『アートのまち取手』としてまちづくりを展開しており、その一環として1999年より市民、東京芸大、取手市の三者共同で取手アートプロジェクト（TAP）として、現代アートの祭典を毎年秋に開催しています。

2. 水辺施設の整備

今回紹介する『利根川水辺の展望台及びあずまや』は、取手市南端を東西に流れる利根川左岸堤防の取手緑地運動公園の駐車場施設内にあります。

当該箇所は、取手市吉田地先の堤防天端の駐車場

施設内の高台に位置し、かつては茨城百景に選ばれた景勝地であるため、利根川下流方面に目を向けると、雄大な利根川の流れを望むことができます。



取手緑地運動公園テニスコート

前方の河川敷に広がる取手緑地運動公園は、J R常磐線利根川橋梁下まで続いており、約26haという河川敷ならではの広大な敷地には、野球場7面、テニスコート10面、サッカー場2面、その他ゲートボール場、グランドゴルフ場、バーベキュー広場、園路広場、多目的広場、自由広場、分区園(市民農園)などがあります。また、総合運動公園として、スポーツ大会だけでなく、花火大会や河川まつりその他市内行事などの会場としても使用され、年間を通じて多くの利用者に親しまれています。



取手緑地運動公園サッカー場

さらに利根川左岸堤防天端は約8.4kmの『利根川サイクリングロード』になっており、サイクリングやウォーキングを楽しむ多くの人たちに親しまれていましたが、利用されている方々より見晴らしの良い当該箇所に休憩施設の設置要望がありました。

また近くには高齢者福祉施設『かたらいの郷』も

あるため、高齢者や地域の人々の安らぎの場や水辺のウォーキングを楽しむ人たちの憩いの場として活用してもらうため、雄大な利根川の河川空間等を見ると360度見渡せる展望台及びあずまやを、(財)リバーフロント整備センターが(財)日本宝くじ協会の助成を受けて行っている「水辺施設の設置事業」として整備していただきました。



利根川サイクリングロード

3. 施設説明

今回設置する展望台及びあずまやを設置する駐車場施設の地盤高はY. P+13.6mで、堤内及び河川敷との高低差は約8.5mの高台になっているため、初日の出が拝める絶好のビューポイントとして、多くの市民に知られた場所です。

この立地の良さを活かすべく、展望台及びあずまやの詳細設計において、構造形式、景観デザイン、維持管理、コスト別に3案にて比較検討を行いました。

その結果、展望台は地域のランドマークとなるよう十分な高さを確保することを優先し、かつ開放感が得られるよう屋根を無くしたデザイン性に配慮した鉄骨構造とし、広さは16㎡、塗装色については周囲に溶け込む色合いであるダークブラウンとしました。

あずまやについては、15㎡強の広さとし鉄骨構造の成型二次製品を採用することにより、ほとんどメンテナンスフリーとなりました。

併せて木製ロングベンチを、あずまや内とその隣地に3基設置しました。



展望台及びあずまや

4. 整備効果

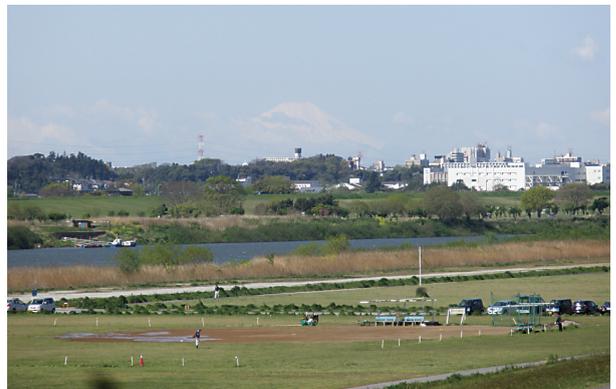
展望台の踊り場は、駐車場より+3.0mの高さとし、視線の高さはY. P+18.0mとなり、大変見晴らしの良い展望台となりました。

展望台からは、利根川を挟んだ南側に富士山、北側には筑波山の悠然たる姿を眺めることができる絶好の場所であり、河川空間を満喫できる憩いの場として、本施設整備後は新聞各紙や市広報にも掲載されたこともあり、市民の関心も高まりウォーキングやサイクリングを楽しむ人ばかりでなく、展望台目当てに多くの人たちが訪れています。

今後は、市民ばかりでなく広く多くの方々に利用していただけるよう広報するとともに、施設の維持管理に努めてまいりたいと考えております。



雄大な利根川の流れ（南東方向）



富士山を望む南側の眺め



万葉集に詠われた紫峰筑波山（北側）